

謹賀新年

昨年、いろいろありました。皆様にはどのような一年でありましたか。うれしい事は、イオオのオリンピックで、金、銀、銅のメダルをたくさん獲得してくれました。悲しい事は、熊本鳥取の地震で、多くの命が失われました。そして、高齢者の交通事故で、多くの犠牲者を出しました。なかなか心穏やかに過ごす事ができませんでした。

少子化の影響で、将来の暮らしに明るい材料を見出せない一年でしたが、今年に駆ける夢を持って、新しい年を迎えたいものです。

佛教は、できる限り、不幸を起こらないように、生きるための正しい教えを身につけて、健やかに暮らす事を願うものです。

「諸法是因縁より生ず」という言葉がありますように、人と人とのつながり、ものものとのつながりを大切に生き方をせねばなりません。

ご近所の声かけは、たいへんありがたいものです。声をかけられて、迷惑な事がありますが、自分が寂しい思いをしているときは、なにかいものものです。

昔は、味噌、醤油などを借りに行ったり、煮物などのおかずをたくさん食べきれないほど作ったとき、おすそわけをして、喜ばれていました。これは田舎の風情で有ります

これからの社会、年配者が増えていく中で、お互いにおすそわけができるのもつと幸せを感じられるのではないかと考えると、なにか夢が叶えられる気がします。



じしん あやまち せいして たんにん  
もっぱら自身の過ちを制して、他人の非を誹謗するなかれ。

自分が過ちを犯したら、深く反省して、決して他人をそしつたりしない心がけが大切である。と誰にもよくわかる戒めですが、さて、あなたにそれができるか、と言われれば、誰でもちよつとは、首をかしげてしまうのではないのでしょうか。

自分の過ちを素直に反省している時に、他の人からそのことに触れられると、途端に他責め立てるようになります。怪しい心を持つものです。これこそ人間のさかです。反省は形だけで終わると、失敗を二度繰り返すものです。

人がいろいろ過ちを犯して、直ちにそれを悔い改め、同じ過ちを二度と繰り返さないように心がけなければ、その罪はどんどん積み重なり、増大して行く。

それはあたかも、海に水に流れ込んで、だんだん増えて深くなっていくものです。

悪い事をして、それを善くない事であったと気づき、自ら反省し、過ちを悔い改め、善い事をし続けていけば、これまでの罪は、日ごとに消滅して、ついに道を得る事ができます。

こんな事をしてしまつて、私はもうダメだと沈みきつてしまつたのではなく、ここを改め、立ち上がつて、善い事を積み重ねて行けば、新しい道が開けてくるのです。というやさしい励ましが詰まってるお経「四十二章経」に説かれています。

人生途上において過ちを犯す事は幾度もあります。しかしそのことによつて自分を閉じ込めるのではなく、少しづつ、善い事を積み重ねていつて、人の前で大きく笑えるような人間を取り戻すことが大事なことです。



しんきいってん  
心機一転のお正月  
元気に過ごそう

お正月は、日本人のころころなのです。時代により、向かえ方が年にとる事で変化していくものです。けれども、私たち日本人にとって、やはりなくてはならない特別な行事です。

門松、しめ縄づくり、鏡餅、おせち料理、お雑煮、たこあげ、コマ回し、お年玉、などなどお正月を迎えようと、子ども達に伝える伝統行事です。彼の 一休和尚が

門松は、冥土の旅の 一里塚  
めでたくもあり、めでたくもなし

門松は 冥土の旅の 一里塚、  
馬かごなく 泊まり屋もなし

とうたわれ、お正月のめでたさに酔っている人たちに警鐘を鳴らし、この浮かれている瞬間も片時も休むことなく、時の流れ、大切な命がすり減っていることを嘆いたのです。人間として尊い命を授かり、それぞれが自分しか果たし得ない役割を担つて今ここに生きることを思うとき、人生最良の目的を果たす姿勢が大切です。そんな時に、間違いやすく怠けやすい私たち人間が時間の流れの中に節目を設け、過ぎた一年を深く見つめ、反省し、新しい年をより充実した生きがいのあるものにして

ようと誓いを立て、精進していこうというすばらしい行事です。時の流れに区切りをつけるお正月は、年が改まると思うだけで、世界が一新したように感じ、心機一転、今年こそはこんな生き方をしようと志を立ててはいかがでしょうか。



先祖様、七きり人への思い

「お陰様です。・・・」ひと昔はよく使われてきました。これは人から受けた恩恵に感謝し、幸せに生きて来られたのです。もう一つは「もったいない」という言葉です。粗末にしないという意味です。自然を壊し、ダムを造るとか、新幹線の駅を作るとか便利になればそれでいいという事があったりもした。でもまだ使えるのに、ほかすの事もったいない。先祖の遺産に感謝する気持ちです。

びんずる会の活動

しやきやう ほうし ぎせん  
写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。ので、皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われる方は、ご一報下さい。

毎月法話会  
毎月十五日に開催します。本堂開けてますので、連絡しますのでね。「玉泉寺住職日記」のブログを毎日更新していただきます。

発行者 高島市安曇川町中三四五九  
天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基  
電話 〇九〇―三七〇八―七二〇六  
FAX (〇七七) 五〇二―二七九  
Eメール syka37375@letto.eonet.ne.jp  
新Eメール info@gyokusenji.com  
ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」をごらん下さい。